

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 山本 芳弘	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) ネットワーク効果による住宅用太陽光発電システムの普及</p> <p>住宅用太陽光発電システムの普及に関して、ネットワーク効果によるイノベーションの普及の観点から研究した。ネットワーク効果によるイノベーションの普及とは、普及理論のひとつで、個人間の情報伝達により新技術などのイノベーションが社会に広まっていくことをさす。この考えでは、新技術を採用しようとする人はその技術についての情報や助言を他人、特にオピニオンリーダーに求め、それによって採用・不採用の意思決定を行うと捉える。このような普及過程が住宅用太陽光発電システムでも成り立つことを明らかにし、それを普及施策に有効活用することを検討した。</p> <p>アンケート調査を行い、(1) 住宅用太陽光発電システムにおいてもこのような普及過程が見られること、並びに、(2) オピニオンリーダーの太陽光発電システムに対する支払意思額が、他の人たちよりも有意に高いことを明らかにした。そして、(3) このネットワーク効果を有効活用するためには、太陽光発電の買い取り施策よりも設置に対する補助金施策の方がより効果的である可能性が高いことを提言した。</p> <p>研究成果については、初期のものをエネルギー・資源学会研究発表会（「住宅用太陽光発電システムの普及」2013年6月、東京）で、より詳細な分析を加えたものを国際会議 World Renewable Energy Congress 2013（「Decision-making of households on adopting photovoltaic systems」2013年7月、パース(オーストラリア)）で、それぞれ報告した。</p> <p>(2) 太陽光発電された電力の最適な買い取り価格と設置補助金</p> <p>2012年度に国内及び国際会議で報告した、住宅用太陽光発電システムにより発電された電力の買い取り価格と設置に対する補助金の組み合わせに関する研究を、投稿用論文にほぼまとめ終えた。社会的費用の最小化、太陽光発電量の最大化、社会厚生最大化、及び効率的・効果的な普及などの各政策目標に対して、最適となる買い取り価格と補助金の組み合わせを明らかにした研究成果である。2014年度初めに投稿予定である。</p> <p>2 その他の事項</p> <p>本学産業研究所のプロジェクト「デフレーション現象への多面的接近」のメンバーとして、『デフレーション現象への多面的接近』（日本経済評論社、2013年）の第8章「デフレとエネルギー問題」を担当した。デフレから脱却するにつれ、エネルギー需要が増加するとともに円安によるエネルギー資源輸入価格が上昇すると予想される。それに対処するためのさまざまな経済施策について述べた。</p> <p>第15回ぐんま環境フェスティバル（公益社団法人群馬県環境資源保全協会主催、2013年10月、高崎）において、「エネルギー・環境のための制度設計」と題した基調講演を行った。エネルギー・環境問題の解決や緩和のためには、技術開発だけではなく、インセンティブを利用した制度設計も重要であることを、再生可能エネルギーの利用や省エネルギーに関して解説した。</p>	